

3月講評

西躰 かずよし

今月も魅力ある作品に出会った。これからも皆さんの作品に期待している。

抗うつ剤の白さ眠くて白鳥来

長谷川柊香 宮城県

抗うつ剤には副作用で眠くなるものがあるが、ただそれは眠れない夜には救いとなる。ここに来る白鳥は病人へと会いにくるものなのだろうか。それとも夜の世界を訪れるものなのだろうか。

花曇り
幼い母の
写真のよう

桜咲 千葉県

『花曇り』という季語は、桜の花が咲く時期の曇天を指すが、表記から曇天のなかの満開の桜が想起される。曇り空のしたの満開の桜は、無残で不穏な感情を隠しているようにも見える。幼い母の写真は、生への漠然とした不安を投影しているかのようである。

バス停の名前を覚えてゆく度に
あなたの街に
とける気がした

浅葱 愛知県

バス停の名前を覚えるというささやかな行為は、あなたへと近づくためのものだろうか。淡い恋愛のようにも見える。季節は何時なのだろうか。それはそれぞれの読者に委ねられる。

海の果てで
何もかもうさぎの形になる
野菜
になる空

立花ばとん 東京都

洗練された作品。『海の果て／何もかもうさぎの形になる』で、それってどんなところだろうと興味を誘う。と突然、大きな切れにも似た行替えがあって、『野菜／になる空』とつづく。すべてがうさぎの形となる海の果てと、野菜になる空。まっさらなくらいシュールな情景である。

404 not found
春の月

松下 誠一 東京都

404 not found(404 エラー)は、存在しないページへのアクセス時に表示される HTTP のステータスコード。これが突然画面上に出てくると、改札で切符を入れたのに扉が閉まったときと同じくらい拒絶された感じがする。季語との取り合わせで作品を予定調和に導くという方法は、ある種古典的といえるかもしれない。同じ作者のものに『なつ雲のあたし点滅する信号機』という素敵な作品があるが、同様の印象を受ける。

空よりも青いロボット夏休み

奎いう子 佐賀県

この作品の肝は、空よりも青いロボットと書いたその情景の見事さにある。空の色よりも鮮やかな青色のロボットが、夏空のしたに生き生きと浮かび上がる。

春の海指と指の隙間みている

土田 真央 滋賀県

『春の海』という季語については、それにつづく一節の表現に合っているかどうか好みに分かれるところであるが、この作品の鍵はそこにはなくて、季語以降の『指と指の間みている』というところにある（逆に『指と指の間みている』だけでも作品は成立する。）。『指と指の間みている』と呟く、もしくはそんな風に呟かざるを得ない作中の人物に読者は共感する。

純白のシャワーサンダル
つまさきで触れたところから
海がはじまる

汐見りら 東京都

『純白の』と敢えて書かれているところから、そのサンダルは純潔が担保されていて、だからこそ海のはじまりの契機となれるのだと思う。でもそう考えると、ここに描かれる海のはじまりは、極めて不安定な条件のうえに成り立っている。作品に漂う、眩しすぎる明るさと、不安は、そうしたところに起因するのかもしれない。

秒針の意味をわすれて春が来る

有野 水都 東京都

秒針の意味をわかっていた時もあったのだとはっとさせられる。大人になるということ
は大切なものをわすれたということすらも、わすれてしまうのだろうか。

同じ作者の作品に『こんなにも鯨つめたい春に居る』『段ボールつぶした匂い春の夜』『シーグラス打ちつけられていて／春星』といったものがあるが、いずれもみずみずしい書き手の感受性を反映している。

土曜日の6時に起きてコンビニで
フィリックスガムひとつ買いたい

サトヤマキュー 鹿児島県

フィリックスガムは昔駄菓子屋で、10円で売っていた猫の絵が描いてあるガム。面白いのは、そんなガム一個をわざわざ土曜日の朝6時のコンビニで買いたいと明言してしまうところである。ここには奇妙な義侠心があるが、それは役に立つ正義とは対極にあるものだろう。そして、むしろそうしたことこそが世界をやわらかで、希望のあるものにしてきたのだ。